

発行所 倉賀野神社  
〒370-1201  
群馬県高崎市倉賀野町1263番地  
電話 027-346-2158  
FAX 027-346-2184  
例祭（秋季大祭）10月19日  
春季大祭 4月19日  
公式ホームページ www.chinju.info/

社頭所感 宮司 高木直明

毎年の四月十九日に倉賀野神社の春の大祭を迎えますが、その十日後の四月二十九日は「昭和の日」です。「国民の祝日に関する法律」によれば、「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす」として、昭和天皇の誕生日を祝日として制定されました。

そしてことし令和七年は、昭和天皇御即位の元年から起算して、ちょうど「昭和一〇〇年」という年にあたります。わが国の悠久の歴史を顧みる節目の年といえましょう。

本紙では昭和以来の倉賀野神社の一〇〇年間を紹介することとしました。さまざまな祭りや出来事を振り返るなかで、御祭神大國魂大神さまの広大な御神恩に思いをはせるとともに、その時代々に、氏子崇敬者の皆様の温かいご理解とご支援をいただいていたことに改めて気づかされ、胸を打たれる次第であります。



甲子大黒天さまの前に新たに建立された灯籠 一对（ことし4月撮影）

倉賀野神社では総代会（亀山恵明会長）が中心となって本年十一月に「昭和百年記念 天明神輿神幸祭」を計画しております。令和元年の御代替りの天明神輿渡御以来、六年ぶりの宮出しとなります。いま国民の約七割が昭和以前の生まれ、約三割が平成以降の生まれといえます。新しい時代に向けて節目の秋に、老いも若きも共々に昭和一〇〇年のお祭りを奉祝いたしましょう。

末尾になりましたが本年はまた、「終戦八〇年」という年でもあります。国のために貴い生命を捧げられた御英霊の前に追悼と感謝の誠を捧げ、世界の平和を希求してまいりたいと思います。

※ 「皇紀」は初代神武天皇が奈良の橿原宮で即位された年を元年とし、西暦紀元前六六〇年にあたります。ことしは皇紀二六八五年。

### 浦安の舞



「浦安の舞」は昭和15年（1940）に「皇紀二千六百年」を記念し、昭和天皇の御製をもとに作曲作舞された神楽舞です。

あめつちの神にぞ祈る あさなぎの海のごとくに 波たたぬ世を

祭りの日の舞姫は倉賀野小・倉賀野中の子供たち。稽古を重ねるなか、世界の平和を祈る意味の御歌であることをまなび、春・秋の大祭に奉仕しています。



### 「中学生神輿」練りゆく

倉賀野中三年生の約80名が神社の子供神輿渡御に参加しました。秋祭り前日の10月18日、神社を出発して旧中山道を巡行。中

学校の正門ロータリーでは「わっしょい」の声も高らかに、元気よく神輿を担ぎ上げました。（祭りの日が土曜日に当たったため、学校行事として日にちを繰り上げて実施したものです。）



### 第6回高崎市「神楽の集い」

高崎市「神楽の集い」が榛名文化会館（エコール）で昨年10月開催されました。市内の太々神楽8団体が出演し、多くの市民が来場しました。倉賀野神社附属太々神楽保存会（江原清会長）も参加して「平の舞」と「鍛冶屋の舞」を披露しました。「神楽の集い」は市と高崎市神楽保存会連絡協議会の共催により3年に一度おこなわれています。



榛名文化会館で演じた倉賀野神社の太々神楽

### ご家庭に神棚をおまつりしましょう

神様の前に手を合わせて、日々の幸せに感謝いたしましょう。おうちの神棚の中央に「神宮大麻」をおまつりします。神宮大麻は伊勢の神宮より、全国の神社を通して、ご家庭に頒布されます。「大神宮さま」、また「お伊勢さま」のお神札ともよばれ、年間を通じて社務所でお受けになります。天照大御神をご祖神と仰ぐ皇室と私たち国民を繋ぐお神札といえましょう。

そして地元の氏神さまのお神札をおまつりします。古くから、神宮大麻と氏神さまのお神札の「一そろうえ」をあわせて「お正月さま」と尊び、毎年、神棚に新しくおまつりする慣わしがあります。

また特に崇敬して参拝に行つた神社の神さま（崇敬神社のお神札）も神棚におまつりします。

アパートやマンションにお住まいでも簡易式の神棚をおまつりすることができます。詳しくはどうぞ神社の社務所にご照会ください。

社務所電話027（346）2158

### 倉賀野神社奉賛会のご案内

奉賛会に加入して氏神様の御守護を厚く戴きましょう。

○奉賛会年会費  
正会員二千元 特別会員一万元  
祭典の振興、文化財の保存、神域の緑化保全にご協力添え下さい。

お問合せ ☎027（346）2158

### 月次祭（つきなみさい）

毎月一日の朝六時半より（拜殿内）氏神様の御守護に感謝し、国家皇室の繁栄と地域の安全を祈る毎月恒例の神事です。どなたもご自由にご参観ください。（ただし一月一日を除きます）お問合せはどうぞ社務所まで。

編集後記▽過日ひよんなことから「いきいきサロン 鎮守の杜」で雅楽の三管合奏を披露することに▽竜笛、笙の塾達者二人に挟まれて、編集子は箏の素人。緊張のあまりに舌（リード）をぺるぺる舐めるが、乾きは一向に収まらない▽そうしてよいよ始まった演奏は「越天楽」。が、気がつくとも聴衆はそつちのけで、いつの間にか自分だけの世界に浸っていた。終わってみて、うん、楽しかった。（直）

平成 元年 1989 「鳥喰池」を復元

平成 2年 1990 「御大典記念 天明神輿神幸祭」

平成 4年 1992 「南大鳥居」が竣工

平成 4年 1992 本殿及び造営文書が市指定重文に

平成 6年 1994 社務所・授与所が竣工

平成 7年 1995 「飯塚久敏顕彰碑」を建立

平成 10年 1998 5月全国植樹祭にあたり天皇皇后両陛下が本県に行幸啓  
ご視察の高崎高等特別支援学校(柴崎町)前で本神社総代会がご奉迎

平成 12年 2000 「皇紀2660年・高崎市制100周年記念  
天明神輿神幸祭」

平成 14年 2002 愛子内親王様御誕生記念「神饌田」を新設

平成 17年 2005 「御造営750年記念 天明神輿神幸祭」

平成 18年 2006 社報「くらがの」が全国神社広報誌  
コンテスト神社本庁統理賞を受賞

平成 21年 2009 「御在位20年記念 天明神輿神幸祭」

平成 25年 2013 参集殿が竣工

平成 25年 2013 「第62回神宮式年遷宮記念  
天明神輿神幸祭」

平成 26年 2014 大雪で本殿の銅板屋根が損傷

令和 元年 2019 「御大典記念 天明神輿神幸祭」

令和 2年 2020 御大典記念 本殿の屋根銅板葺替え工事が竣工

令和 4年 2022 「高崎市文化財保護賞」を倉賀野神社が受賞

令和 6年 2024 境内「甲子大黒天神社」に灯籠一対を新設

令和 6年 2024 境内の参拝者駐車場整備工事



平成の御大典を記念して「天明の神輿」を修理、あわせて神輿庫の大改修もおこなわれた。

幕末倉賀野出身の文人・飯塚久敏。越後の良寛の伝記『橋物語』など多くの著作を残している。

境内の神饌田。倉賀野中生徒が毎年の御田植祭、抜穂祭に参加、奉仕している。

伊勢神宮の次回の第六十三回御遷宮は、令和十五年におこなわれる。

大雪で損壊した本殿屋根の銅板鬼。緊急修理がおこなわれた。

およそ八十年ぶりの本殿屋根の葺き替え工事。見学会に氏子の人々が集まった。

# 昭和100年と倉賀野神社

昭和から平成、令和へと倉賀野神社の100年を振り返ります

昭和 2年 1927 境内「冠稲荷神社」に石鳥居を建立

昭和 12年 1937 本殿の屋根修理工事  
従来の柿葺から銅板葺に葺き替え

昭和 12年 1937 倉賀野城址近くにあった  
「北向道祖神」を倉賀野神社境内に移設

昭和 15年 1940 皇紀2600年を記念し本殿に御簾を奉納  
('皇紀'については本紙一面の「浦安の舞」を参照)

昭和 20年 1945 終戦

昭和 26年 1951 「国魂の池」復旧工事

昭和 27年 1952 手水舎が竣工

昭和 33年 1958 「御造営700年記念大祭  
・天明神輿神幸祭」

昭和 38年 1963 旧群馬郡倉賀野町が高崎市に合併

昭和 39年 1964 拜殿の瓦屋根葺替え工事

昭和 43年 1968 明治100年記念 正面東「大鳥居」竣工

昭和 46年 1971 神楽殿が竣工

昭和 51年 1976 「算額」が市指定重文に

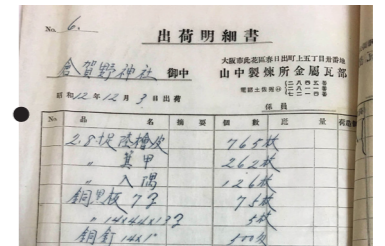
昭和 59年 1984 境内に「甲子大黒天神社」を設立

昭和 61年 1986 御在位60年記念「玉垣」竣工

昭和 61年 1986 神社附属太々神楽保存会が発足

昭和 61年 1986 社報「くらがの」創刊

昭和 63年 1988 本殿・幣殿・拜殿の外壁及び  
殿内調度の補修工事がおこなわれる



本殿の屋根材料の出荷明細書。銅板は大阪で製造されたもので、令和二年までの約八十年間、役目を果たした。



復旧した池は今よりも大きいものだったという。背後の右手に見えるのは旧神楽殿。



建長年間の倉賀野三郎高後の社殿造営から七百年の大祭。神輿行列に興丁として参加した思い出話を古老から聞いた。



明治百年記念に完成した正面鳥居。



氏子の人々が発起して神楽の舞とお囃子を習得。写真は保存会が発足してからおよそ三十年後、平成二十九年の春祭り。